

わくわく 本だな



こんげつのおすすめ



★ = 1・2年

★★ = 3・4年

★★★ = 5・6年

『まよなかのたんじょうかい』（えほん）
西本 鶏介／作 渡辺 有一／絵 鈴木出版



きょうはさきちゃんのたんじょうび。でも、お母さんが夜になってもかえってきません。なにかあったのでしょうか。

『ひみつのプクプクハイム村』（えほん）
ミヒヤエル・ゾーヴァ／作・絵 木本 栄／訳 講談社



プクプクハイム村は、むかし、クサイハイム村とよばれていました。あるにおいのせいで、とってもくさかったのです。

『いすおばけぐるぐるんぼー』 ★
角野 栄子／作 はた こうしろう／絵 小峰書店

おばけのぐるぐるんぼーのくいわざは、イスをぐるぐるまわして、にんげんを空へとばすこと。ぼくも空をとんでみたいな。



『こたえはひとつだけ』 ★★
立原 えりか／作 みやこし あきこ／絵 鈴木出版

「妹なんて、いなくなればいいのに。」ユミが思わず言ったとたん、あやしい男があらわれて、妹をさらって行ってしまいました。



『ドラゴン株式会社』 ★★★
新城 カズマ／作 アントンシク／絵 岩崎書店



エルマのもとに届いた1つの種。植えてから777秒後に生まれたのは、なんとドラゴンだったのです。

『妖精』（ちしきの本）
百々佑利子／監修 矢島眞澄／絵 グラフィック社



妖精って、ほんとにいるの？ 目には見えないけれど、人間に化けていたずらしている妖精もいるんだって。



『ワニのお嫁さんとハチドリのお嫁さん』

(えほん)

清水 たま子/作 竹田 鎮三郎/絵 福音館書店

長い間^{あいだ}あそび合っている二つの国がありました。なかなかおりをするために、それぞれの国のむすめをお嫁さんにだすことにします。



『おひさまやのめざましどけい』 ★

茂市 久美子/作 よしざわ けいこ/絵 講談社



ひろしは、あさがにがてです。ある日「おひさまや」で、まほうのめざましどけいをもらいました。

『にげだした王さま』 ★

宮下 すずか/作 石川 日向/絵 くもん出版



本の中の文字たちは、夜^{よる}だけぬけだします。かっこいいといわれた<王>の字は、ほかの字をばかにして、みんなをおこらせてしまいました。

『花曜日』 ★★

安江 生代/作 ふりや かよこ/絵 文研出版

ルミは、こまっている人をほうっておけません。だれかに親切をした日を「花曜日」と言うんだって。どうしてかな。



『ふわふわ』 ★★

中山 聖子/作 尾崎 眞吾/絵 福音館書店

鳥インフルエンザがはやりだしました。香枝は、公園の白鳥^{かえ}たちにうつるのではと、しんぱいでたまりません。



『ひみつの花便り』 ★★★

田村 理江/作 高山 まどか/絵 国土社



最近、花音^{かおん}はあるできごとから、手紙を書くようになりました。学校では言えないことも、なぜか手紙だったら書けるのです。

『トム・ゲイツ トホホなまいにち』 ★★★

L・ピーション/作 宮坂 宏美/訳 小学館

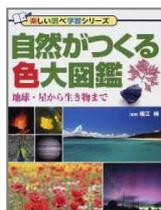


トムの最悪の日は、先生の「びっくりプレゼント」から始まりました。席がえで一番前の席になったのです。

『自然がつくる色大図鑑 地球・星から生き物まで』 (ちしきの本)

福江 純/監修 PHP 研究所

海が青く見えるのはなぜ？虹^{にじ}はどうやってできるの？自然がつくる色は、ふしぎがいっぱいです。



『とうふができるまで』 (ちしきの本)

宮崎 祥子/構成・文 白松 清之/写真 岩崎書店

とうふは、大豆^{だいず}から作られています。でも、とうふと大豆の形はちがいます。どうやってできるのでしょうか。



読みたい本、さがしている本は窓口^{まどぐち}で聞いてね！としかんのホームページも見てください。

< 編集・発行 > 富山市立図書館 富山市丸の内1丁目4-50 電話 076-432-7273